

複合材料部門委員会 平成22年度事業報告(案)

1. 定例委員会

回	年月日	開催場所	担当委員	備考（共催など）	出席者数
224	平成22年6月11日	近畿大学農学部	大窪	日本木材加工技術協会 WPC 部会	23
225	平成22年8月27, 28日	城崎大会議館(兵庫県豊岡市)	倉敷, 西簀	JCOM 若手シンポジウムにおいて開催	25
226	平成22年11月2日	東レ株式会社名古屋事業場第一工場内 オートモーティブセンター	島村	見学会と併設	31
227	平成22年1月25日	大阪市立大学文化交流センター	北條	日本接着学会関西支部および日本複合材料学会関西支部	38

第224回定例委員会

- ・ビジネスミーティング
- ・研究討論会
- (1)「ウッドプラスチックの概要」高谷政広（近畿大学）
- (2)「日本材料学会複合材料部門委員会の紹介，およびグリーンコンポジット用植物系天然繊維の強度評価」合田公一（山口大）
- (3)「ウッドプラスチックの新規技術事例紹介」伊藤弘和（ヤマハリビングテック）
- (4)「グリーンコンポ WG の活動概要，および事例紹介：圧密竹繊維マットを用いたスタンパブルシートの製作におけるニードルパンチングと spring-back 加工の効果」大窪和也（同志社大）

第225回定例委員会（JCOM 若手シンポジウム）

- ・研究討論会
- 「CFRP 等の各種先進複合材料の設計・評価」鵜沢潔（東京大）

第226回定例委員会

- ・ビジネスミーティング
- ・研究討論会
- (1)「フェムト秒レーザーパルスによる CFRP 板への高精度穴あけ加工」松田稔（静岡県浜松工業技術センター）
- (2)「CFRP の圧縮強度と衝突エネルギー吸収特性」上田政人（日本大）
- (3)「超臨界流体を用いる CFRP のリサイクル」岡島いづみ（静岡大）
- ・見学会（東レ株式会社名古屋事業場第一工場内 オートモーティブセンター）

第227回定例委員会

- ・ビジネスミーティング
- ・研究討論会
- (1)「CNF 強化型 CFRP 積層板の成形とその特性評価」荒井政大（信州大）
- (2)「カーボンナノチューブと分子との接着を制御する」藤ヶ谷剛彦（九州大）
- (3) 国際会議情報1「IWGC-6 における接着関係の研究について」合田公一（山口大）
- (4) 国際会議情報2「接着国際会議における複合材料研究」岸肇（兵庫県立大）
- (5)「ナノ・マイクロ構造制御による高性能 CFRP の開発」釜江俊也（東レ）

2. 第2回日本複合材料合同会議（JCCM-2）

- ・東日本大震災のため，講演会は中止．USB 論文集を発行．

- ・ 論文集発行元： 日本材料学会，日本複合材料学会
(参考：実行委員会委員長 杉本直 (JAXA)，幹事 倪 慶清，野田淳二ほか)

3. 6th International Workshop on Green Composites (IWGC-6)

- ・ 日時： 2010 年 9 月 8～10 日
- ・ 場所： Kumoh National Institute of Technology (韓国)
- ・ 主催： Kumoh National Institute of Technology ほか，部門は協賛扱い
- ・ 講演件数： 34 件 (口頭)，71 件 (ポスター)
- ・ 参加者数： 150 人

4. 第2回自動車用途コンポジットシンポジウム

- ・ 日時： 2010 年 12 月 11 日
- ・ 場所： 同志社大学・寒梅館
- ・ 講演件数： 18 件
- ・ 参加者数： 70 人

5. ACCM-7

- ・ 日時： 2010 年 11 月 15～18 日
- ・ Taipei International Convention Center (台湾)
- ・ 講演件数： 394 件
- ・ 参加者数： 601 人

6. 国際学術交流

- ・ 清華大学および逢甲大学 合同研究会
- ・ 日時： 2010 年 11 月 19 日
- ・ 場所： 新竹市および台中市
- ・ 講演件数： 計 7 件
- ・ 参加者数： 11 人 (清華大学)，19 人 (逢甲大学)

7. JCOM 若手シンポジウム

- ・ 日時： 2010 年 8 月 27, 28 日
- ・ 場所： 城崎大会議館
- ・ 講演件数： 19 件
- ・ 参加者数： 25 名

8. 小委員会等

- ・ 幹事会
開催回数： 5 回 (5/28, 6/11, 10/27, 11/2, 1/25)
- ・ JCCM-2 実行委員会
開催回数： 1 回 (11/23)

9. 研究ワーキンググループ

- ・ グリーンコンポジットWG (WG 報告資料参照)
- ・ 量産車用コンポジットの開発WG (WG 報告資料参照)

10. 会誌「材料」関連

- ・ 講座
掲載号： 2010 年 11 月号～2011 年 2 月号
論文数： 5 件
講座： バイオコンポジットの現状と将来展望
1. 単一素材から成るグリーンコンポジット ―グリーンコンポジットの現状と将来展望 (1)―

- 高木 均氏（徳島大学）
2. 植物系天然繊維の強度評価 ―グリーンコンポジットの現状と将来展望（2）―
- 合田 公一氏（山口大学）
3. セルロースを強化材とするグリーンコンポジットの現状と将来展望
- 板倉 雅彦氏（ダイセルポリマー㈱）
4. バイオマスの炭化によるバイオコンポジット ―ウッドセラミックスの現状と将来展望―
- 岡部 敏弘氏ほか（青森県産業技術センター）
5. 医療用バイオコンポジットの現状と将来展望
- 東藤 貢氏（九州大学）

1 1. 部門表彰

- ・ 功績賞 藤井透委員

複合材料部門委員会 平成23年度事業計画（案）

1. 定例委員会

回	年月日	開催場所	担当委員	備考（共催など）
228	平成23年5月24日	大阪大学コンベンションセンター	俣, 大窪	台湾複合材料学会ならびに木質材料部門委員会, 高分子材料部門委員会
229	平成23年9月2, 3日	京都工芸繊維大学 京丹後キャンパス地域連携センター	西薮	JCOM 若手シンポジウムにおいて開催
230	平成23年10月18日	㈱ジャムコ テクニカルセンター（東京三鷹市）	上田	見学会と併設
231	平成24年1月または2月	未定（関西地区）	田中(和)	

2. 日本材料学会創立60周年記念研究集会

- 1) ナノ材料を利用した複合材料技術の新展開（国際学術交流として台湾複合材料学会と共催）
- 2) ウッドプラスチック&グリーンコンポジット ―世界の研究・開発動向と日本の現状―（木質材料部門委員会, 高分子材料部門委員会と共催）

- ・ 期日：2011年5月24日
- ・ 場所：大阪大学コンベンションセンター

3. 第2回JCOM若手ワークショップ

- ・ 期日：2011年9月2, 3日
- ・ 場所：京都工芸繊維大学 京丹後キャンパス地域連携センター

4. 第4回日中グリーンコンポジット交流セミナー

- ・ 期日：2011年10月5～7日
- ・ 場所：東華大学（中国上海市）

5. 見学会

- ・ ㈱ジャムコ テクニカルセンター（第230回定例委員会と併設）

6. 第3回自動車用途コンポジットシンポジウム

- ・ 期日：2011年12月

- ・ 場所：関西地区
7. 第3回日本複合材料合同会議（JCCM-3）
- ・ 期日：2012年3月
 - ・ 場所：関西地区
8. 小委員会等
- ・ 幹事会，JCCM-3 実行委員会などを随時開催
9. 研究ワーキンググループ
- ・ グリーンコンポジットWG
 - ・ 量産車用コンポジットの開発WG
10. 会誌「材料」関連
- ・ 複合材料特集号
掲載号：2011年5月
論文数：7件
11. 部門賞
- ・ 論文賞，奨励賞，技術賞，功績賞の各賞を選考

複合材料部門委員会 平成23年度幹事及び担当委員（案）

氏名	所属	役職	備考
合田 公一	山口大学	委員長	
俣 慶清	信州大学	幹事	副委員長，国際交流
野田 淳二	山口大学	幹事	庶務
日下 貴之	立命館大学	幹事	
大窪 和也	同志社大学	幹事	本部企画事業委員，グリーンコンポ WG
西薮 和明	近畿大学	幹事	若手シンポ
高坂 達郎	高知工科大学	幹事	本部編集担当委員
倉敷 哲生	大阪大学	幹事	
島村 佳伸	静岡大学	幹事	HP
田中 和人	同志社大学	担当	量産車用コンポ WG，定例会
高木 均	徳島大学	担当	60周年記念出版作業部会
竹村 兼一	神奈川大学	担当	日中グリーンコンポセミナー
小沢 喜仁	福島大学	担当	東北
上田 政人	日本大学	担当	定例会，見学会
轟 章	東京工業大学	担当	関東
中田 政之	金沢工業大学	担当	北陸
黄木 景二	愛媛大学	担当	中国四国
北條 正樹	京都大学	担当	（補佐）

役職欄の「担当」は担当委員であり，必要に応じて幹事会に参加できる。

複合材料部門委員会 平成22年度決算書案

平成22年4月1日から平成23年3月31日まで

科目	予算額	決算額	増減	備考
I 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
①会費収入	535,000	490,000	45,000	予算の時点で個人120名法人7社
②事業収入	300,499	1,042,361	-741,862	
図書売上収入	0	0	0	
委員会参加費収入	0	975,430	-975,430	ACCM-6剰余金(国際会議積立金へ)
研究集会開催収入	300,499	66,931	233,568	JCCM-1剰余金
③他会計からの繰入金収入	120,000	120,000	0	
本部交付金収入	120,000	120,000	0	
会費還元収入	0	0	0	
④雑収入	0	0	0	
その他雑収入	0	0	0	
事業活動収入計	955,499	1,652,361	-696,862	
2. 事業活動支出				
①事業費支出	620,000	1,108,423	-488,423	
委員会開催支出	620,000	1,008,423	-388,423	
臨時雇賃金	100,000	0	100,000	
消耗品費	0	8,121	-8,121	国際交流事業土産代(7,505)含む
事務用品費	0	0	0	
印刷製本費	50,000	264,900	-214,900	会誌(講座)11, 12, 1月号別刷り代
諸謝金		50,000	-50,000	第225回(20,000) 第226回(10,000×3人)
会議費(会場費など)	70,000	115,306	-45,306	若手シンポ補助(102,956) 第226回(11,500) 第227回(850)
旅費交通費	400,000	549,956	-149,956	第226回(1,940) 第227回(69,481) ACCM-7渡航費補助(20,000×19人)国際交流事業(96,835) (前年度残金 1,700含む)
通信費	0	15,730	-15,730	
支払手数料	0	4,410	-4,410	(前年度残金 290含む)
雑支出	0	0	0	
分科会開催支出	0	100,000	-100,000	WG活動費(50,000×2WG)
委員会図書刊行支出	0	0	0	
表彰事業支出	0	0	0	
②管理費支出	345,400	350,740	-5,340	
会議費	121,800	19,700	102,100	(前年度残金 3,500含む)
消耗品費支出	70,000	0	70,000	
通信費支出	1,600	68,260	-66,660	(前年度残金 1,300含む)
旅費交通費支出	150,000	162,780	-12,780	(前年度残金 88,900含む)
諸団体会費		100,000	-100,000	IWGC-6共催金
雑支出	2,000	0	2,000	
③他会計への繰入金支出	4,730	4,870	-140	
本部事務経費	0	0	0	
会計管理費	4,730	4,870	-140	
データ管理料	0	0	0	
事業活動支出計	970,130	1,464,033	-493,903	前年度残金(95,690)を差し引くと1,368,343(うち、国際会議積立金から480,000を支出)
事業活動費収支差額	-14,631	188,328	-202,959	
II 投資活動収支の部				
1. 投資活動収入				
①特定資産取崩収入	0	0	0	
投資活動収入計	0	0	0	
2. 投資活動支出				
①特定資産取得支出	0	0	0	
投資活動支出計	0	0	0	
投資活動収支差額	0	0	0	
III 財務活動収支の部	0	0	0	
IV 予備費支出				
当期収支差額	-14,631	188,328	-202,959	
前期繰越収支差額	705,225	705,225	0	
次期繰越収支差額	690,594	893,553	-202,959	繰越額のうち、495,430は国際会議積立金扱いのこと。

複合材料部門委員会 平成23年度予算案

平成23年4月1日から平成24年3月31日まで

科目	予算額	前年度予算額	増減	備考
I 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
①会費収入	514,000	535,000	-21,000	個人120名 法人7社
②事業収入	250,000	300,499	-50,499	
図書売上収入			0	
委員会参加費収入			0	
研究集会開催収入	250,000	300,499	-50,499	JCCM-3剰余金
③他会計からの繰入金収入	220,000	120,000	100,000	
本部交付金収入	120,000	120,000	0	
本部交付金収入(60周年記念出版)	100,000			
会費還元収入	0	0	0	
④雑収入	0	0	0	
その他雑収入			0	
事業活動収入計	984,000	955,499	28,501	
2. 事業活動支出			0	
①事業費支出	824,600	620,000	204,600	
研究集会開催支出			0	
委員会開催支出	724,600	620,000	104,600	
臨時雇賃金	20,000	100,000	-80,000	
消耗品費	10,000		10,000	日中GCセミナー土産代
事務用品費	5,000		5,000	
印刷製本費	174,600	50,000	124,600	会誌(講座)2月号別刷り代(2回分)
諸謝金	100,000		100,000	25,000×4回分(1回は2～3万円)
会議費(会場費など)	120,000	70,000	50,000	若手シンポに100,000補助
旅費交通費	180,000	400,000	-220,000	国際交流事業への補助(馬先生講演および日中GCセミナー)
WG活動費	100,000	0	100,000	50,000×2WG
通信費	15,000	0	15,000	
雑支出			0	
委員会図書刊行支出	0	0	0	
表彰事業支出	100,000	0	100,000	
消耗品費	50,000	0	50,000	
事務用品費			0	
諸謝金			0	
会議費(会場費など)			0	
旅費交通費	50,000	0	50,000	
通信費			0	
雑支出			0	
②管理費支出	240,000	345,400	-105,400	
会議費	30,000	121,800	-91,800	
消耗品費支出	5,000	70,000	-65,000	
通信費支出	5,000	1,600	3,400	
旅費交通費支出	200,000	150,000	50,000	JCCM中間見直し会交通費含む
諸団体会費			0	
雑支出		2,000	-2,000	
③他会計への繰入金支出	5,140	4,730	410	
本部事務経費	0	0	0	
会計管理費	5,140	4,730	410	
データ管理料	0	0	0	
事業活動支出計	1,069,740	970,130	99,610	
事業活動費収支差額	-85,740	-14,631	-71,109	
II 投資活動収支の部			0	
1. 投資活動収入			0	
①特定資産取崩収入	0	0	0	
投資活動収入計	0	0	0	
2. 投資活動支出			0	
①特定資産取得支出	0	0	0	
投資活動支出計	0	0	0	
投資活動収支差額	0	0	0	
III 財務活動収支の部	0	0	0	
IV 予備費支出			0	
当期収支差額	-85,740	-14,631	-71,109	
前期繰越収支差額	893,553	705,225	188,328	
次期繰越収支差額	807,813	690,594	117,219	繰越額のうち、495,430円は国際会議積立金扱い。別会計として1,000,000円あり。国際会議積立金計1,495,430円

JCCM-1 収支決算

開催日：平成22年3月9日(火)～11日(木)
 場 所：キャンパスプラザ京都(京都市)
 参加者：375名(無料23名含む)
 講演件数：175件

収 入		支 出	
科目	金額	科目	金額
参加費		謝金	81,944
会 員 6,000×211名	1,266,000	アルバイト代	300,000
非会員 12,000×26名	312,000	旅費・交通費	122,500
学生会員 3,000×62名	186,000	USB作成費	691,600
学生非会員 6,000×53名	318,000	論文集印刷代	304,500
論文集(テキスト)販売		軽印刷費	54,600
6,000×5冊	30,000	会場費	254,950
6,500×3冊	19,500	会議費	290,050
5,975×1冊	5,975	表彰費	15,000
10,200×3冊	30,600	懇親会費	560,000
12,000×1冊	12,000	通信費	54,642
懇親会参加費(119名)	545,000	消耗品費	282,038
広告掲載費	50,000	論文投稿受付フォーム作成費	52,500
展示料(13社)	500,000	事務費	90,000
		消費税	25,135
		部門委員会会計繰入	66,931
		本部会計繰入	28,685
合 計	3,275,075	合 計	3,275,075

会議費に実行委員会交通費含む

消耗品費に展示備品費用含む

JCOM若手シンポジウム 収支決算書

開催日：平成22年8月27日(金)、28日(土)
 場 所：城崎大会議館
 参加者：25名
 講演件数：19件(特別講演を含む)

収 入		支 出	
科目	金額	科目	金額
参加費		謝金*	20,000
会員 12,000 × 5 名	60,000	アルバイト代	14,000
若手実行委員 5,000 × 9 名	45,000	旅費・交通費	0
学生会員 5,000 × 9 名	45,000	会場費(1日目)	214,820
一日のみ参加 2,000 × 1 名	2,000	会場費(2日目)	20,344
論文集(テキスト)販売		会議費	3,792
会 員 3000 × 40 冊	0	懇親会費	0
非会員 5000 × 2 冊	0	通信費	0
懇親会参加費	0	消耗品費	0
広告掲載費	0		
部門委員会負担金	120,956		
展示料	0		
合 計	272,956	合 計	272,956

*第225回定例委員会扱い

よって若手シンポに要した実質的な部門委員会負担金は100,956円となる

平成22（2010）年度「グリーンコンポ」ワーキンググループ事業報告書 （平成22年4月1日～平成23年3月31日）

平成 21 年度の活動目的を継続し、平成 22 年度では以下の研究活動を行った。

1. 活動内容

（1）第16回WG

日時：平成 22(2010)年 6 月 11 日(金)13:00～17:10
場所：近畿大学農学部 教室棟 第一会議室(奈良県奈良市)
内容：講演 5 件(ウッドプラスチックおよびグリーンコンポジットに関連する講演)
参加者人数：23 名(うち、WG メンバーの参加者 6 名)
(第 224 回複合材料部門委員会を兼ね、日本木材加工技術協会・木材プラスチック複合材(WPC)部会との合同研究会とした)

（2）臨時WG

平成 22 年(2010 年)年 9 月 10 日(金)12:20～12:50
場所：Kumoh National Institute of Technology(韓国)の会議室、および後日の e-mail 会議
出席者人数：メンバー11 名、オブザーバ 2 名。
内容：議事 2 件、
議事①：次回の IWGC-7 の開催のお願いの件(静岡大学の島村委員にお願いする事を決定)
議事②：当 WG が関連する日本材料学会 60 周年記念出版事業の件(出版物の構成、基本内容、形態案、分担、などを決定)

（3）IWGC-6(The Sixth International Workshop on Green Composites)の開催に協力

日時：平成 22(2010)年 9/08～9/10
場所：韓国の Kumoh National Institute of Technology
内容：Oral 発表 30 件超程度、Poster 発表 70 件超程度
参加者：145 名(主催者発表)、日本よりの参加者：35 名(主催者発表)

（4）第17回WG

日時：平成 23(2011)年 01 月 21 日(金)13:30～17:00
場所：パナソニックエレクトロニックデバイス株式会社 カスタム部品ビジネスユニット事業所会議室(三重県松阪市)
参加者人数：9 名(メンバー8 名、オブザーバ 1 名)
内容：議事 1 件、講演 1 件(竹繊維スピーカの開発に関連する講演)、見学会 1 件
議事：IWGC-7 の準備状況の件
見学会：竹の天然繊維を使った紙(スピーカ用コーン紙)の抄紙工程、およびスピーカへの組み付けなどの工程現場の見学

2. メンバー異動

(1)第16回WGにて、奈川大学工学部助教 金孝鎮氏の入会を承認した。
(2010 年度末現在、活動メンバー数 29 名)

3. 会計報告

(1)収入の部

部門交付金：50,000円

収入合計：50,000円

(2)支出の部

第16回WG費：50,000円

支出合計：50,000円

(3)収支：0円

以上

平成23年度（2011年度）「グリーンコンポ」ワーキンググループ活動計画書
（平成23年4月1日～平成24年3月31日）

平成 22 年度の活動目的を継続し，平成 23 年度では以下の研究活動を行う予定である．

1. 活動計画

（1）第18回WG

平成 23 年春または初夏頃
場所，内容：調整中

（2）ICCM-18 の開催に協力

the 18th International Conference on Composite Materials (ICCM18)
日程：August 21st to 26th
場所：in Jeju, Korea

（3）IWGC-7 (The Seventh International Workshop on Green Composites) の開催に協力

日程：2012 年（平成 24 年）夏頃の予定
場所：静岡県浜松市の予定
第 1 回 Local committee 会を，9/9（第 18 回 WG，または第 19 回 WG と兼ねて），静岡県浜松市にて開催予定

（4）第19回WG

平成 23 年冬頃
場所，内容：調整中

2. 予算

（1）収入の部

部門交付金：50,000円

収入：50,000円

（2）支出の部

第18および第19回WG費（資料作成代，印刷費，雑費）：50,000円

支出予定：50,000円

以上

<活動目的>

近年、環境への配慮から自動車車体軽量化の推進が望まれている。また、乗員の保護の観点から高強度化、高エネルギー吸収性能が求められるなど相反する要求がある。現在のところ高張力鋼板および高強度アルミニウム合金の使用が主流であるが、CFRP を用いることにより従来の金属製車体に比べ大幅な軽量化および高エネルギー吸収性能を持つ車体の製造が可能であると考えられる。レーシングカー等一部特殊な車両には CFRP の優秀性が認められているが、量産車両では成形方法、コスト等の解決すべき問題が多くある。本研究プロジェクトでは CFRTTP の成形法の開発とその機械的特性評価、CFRTTP の LCA 評価などを行い、CFRTTP を用いた軽量かつ安全な量産車両車体の設計・製造の基礎技術および応用技術の開発を目指している。

以上の背景から、本年度は下記の活動を行った。

<活動内容>

(1) 第 4 回幹事会

日時:2010 年 4 月 3 日(土)午後 6 時-午後 9 時

場所:グランビア京都

参加者:4 名

(2) 第 5 回幹事会

日時:2011 年 3 月 29 日(火)午後 7 時-午後 8 時

場所:アストリッドホテル・パリ

参加者:3 名

(3) 第 5 回 WG

(「JISTES 2010 KYOTO SAMPE Japan 先端材料技術京都国際会議 2010」への協賛として開催)

主題:複合材加工技術の刷新へのダイナミックな挑戦

日時:2010 年 7 月 15 日(木)16 日(金)

場所:同志社大学(京都) 今出川校地 寒梅館 地下 A 会議室

参加者 82 名(WG メンバーおよび複合材料部門委員会からの参加:3 名)

招待講演:日本から 2 件、米国から 2 件、欧州から 6 件の合計 10 件

(4) 第 6 回 WG

主題:K 2010(デュッセルドルフ)視察とデルフト工科大学において講演会・見学会

日時:2010 年 10 月 31 日-11 月 5 日

場所:31 日-3 日 K 視察, 5 日 デルフト工科大学講演会見学会

参加者:4 名(WG メンバーおよび複合材料部門委員会からの参加)

(5) 第 2 回 自動車用途コンポジットシンポジウムの開催

主催:日本材料学会・複合材料部門委員会, 同志社大学複合材料研究センター, SAMPE Japan・コンポジット委員会

協賛:(社)自動車技術会・関西支部, プラスチック成形加工学会・関西支部

開催日:2010 年 12 月 11 日(土)

会場:同志社大学(今出川校地)寒梅館 KMB203 室

参加者:70 名

講演内容:15 件の一般講演と 3 件の基調講演

「量産車用コンポジットの開発」ワーキンググループ 収支決算

収 入		支 出	
科目	金額	科目	金額
WG 交付金	50,000	第 4 回幹事会会議費	34,772
前年度繰越金	26,869	次年度繰越金	42,097
合 計	76,869	合 計	76,869

平成 23 年度「量産車用コンポジットの開発」ワーキンググループ事業計画(案)
(平成 23 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日)

＜活動計画＞

(1) 幹事会 1 回程度を予定

日時:2011 年 9 月

場所:京都

(2) 2011 年度 WG 10 月と 3 月の 2 回を予定, 第 3 回 自動車用途コンポジットシンポジウム
(2011 年 12 月 3 日(土))の共催.

以上

International Symposium on Sustainable Composites (ISSC) (第4回 日中グリーンコンポ交流セミナー: 4th China-Japan Joint Seminar on Green Composites) 開催のご案内

本セミナーの開催趣旨:

ガラス繊維やカーボン繊維を強化材とする複合材料は、航空・宇宙機器、輸送機器、スポーツレジャー用品を始め、様々な産業分野へ応用展開されてきました。最近では大規模震災や老朽化による構造物の補強材として土木建築分野への応用が進み、今後は日本のみならず、中国においてもその市場規模の飛躍的な拡大が予想されています。中国の大量生産・大量消費型社会への移行が今後いっそう進む中、環境適合複合材料の台頭も要請されています。中でも、グリーンコンポジット (Green composites) を始めとする天然繊維や生分解性樹脂を用いたバイオマスによる材料開発・応用に関する研究・技術の進展に期待が寄せられています。

そこで、日中をはじめとする国際間の更なる研究開発・応用を発展させるための討論・情報交換ならびに人的交流を目指し、2009年10月に開催された第3回日中グリーンコンポ交流セミナー (於: 東華大学) を発展させた形で、International Symposium on Sustainable Composites (ISSC) (第4回日中グリーンコンポ交流セミナー) を下記の要領で開催します。

記

会議名: International Symposium on Sustainable Composites (ISSC)

(第4回日中グリーンコンポ交流セミナー: 4th China-Japan Joint Seminar on Green Composites)

主催: 日本材料学会複合材料部門委員会及び東華大学

協賛(予定): 日本機械学会, 日本複合材料学会, 強化プラスチック協会, セルロース学会, 高分子学会, 日本木材学会, 日本木材加工技術協会, 複合材料界面科学研究会

日時: 2011年10月5日(水)~7日(金)

会場: 東華大学キャンパス (上海市)

本セミナーで扱う内容について:

本セミナーで扱う内容は「グリーンコンポジット等持続的再生産が可能な複合材料に関わる基礎・応用研究」です。例えば、

- ・ 天然繊維, セルロースや生分解性樹脂などグリーンコンポジット構成素材の強度や品質
- ・ マトリックス材(樹脂)との界面適合性を高める天然繊維処理
- ・ グリーンコンポジットの斬新的成形方法と成形条件
- ・ グリーンコンポジットの力学的挙動や耐環境性

などを対象とします。さらに、グリーンコンポジット構成素材およびグリーンコンポジットに関する解析, 試験法, 機能性, スマート化, リサイクルなどを対象とします。

プログラム(予定):

10月5日(水)

ウェルカムパーティー

10月6日(木)

基調講演1 中国側から1件予定

基調講演2 日本側から1件予定

基調講演 3 韓国から 1 件予定

基調講演 4 米国またはアフリカから 1 件予定

及び一般講演 15 件程度

講演時間は、基調講演 30 分、一般講演 15 分（それぞれ質疑を含む）を予定しています。

10 月 7 日（金）

関連施設の見学

使用言語：英語とします。

参加費：日本材料学会複合材料部門委員会委員 20,000円

日本材料学会および協賛学会会員 23,000円、一般 30,000円、学生 8,000円

参加費にはプロシーディング代、懇親会費（140円、日本円で2,000円相当）が含まれます。上海までの交通費や宿泊費は含まれませんのでご注意ください。なお、現在中国側の代表者（東華大学 Prof. Yiping Qiu）と連絡をとりながら、参加費の減額が可能かどうかを交渉しています。

参加申込方法：

「International Symposium on Sustainable Composites (ISSC) 申込み」と明記の上、①参加者の氏名、②所属、③連絡先および④研究発表を希望する場合には研究題目、発表者氏名とその所属、およびアブストラクト（英文 300 字程度）を記入し、下記の申込先へ E-mail でお送りください。申込みの締切日は

研究発表希望者：2011 年 8 月 5 日（金） 参加申込者：2011 年 8 月 26 日（金）

です。また、本セミナーではプロシーディングスを発刊します。発表者は事前にプロシーディングス原稿を提出ください。原稿は MS-Word または PDF ファイルで作成するものとし、下記の提出先に電子メールで 2011 年 8 月 26 日（金） までに送付ください。なお、原稿の作成要領は添付ファイル「Format.pdf」を参照に、基調講演原稿 4～6 枚、一般講演原稿 2～3 枚でそれぞれ執筆ください。当日の発表はパワーポイントでお願いします。

申込先・原稿提出先：

〒221-8686 横浜市神奈川区六角橋 3-27-1

神奈川大学工学部機械工学科 竹村 兼一 宛

TEL：045-481-5661（内線 3488） FAX：045-491-7915 E-mail：takemura@kanagawa-u.ac.jp

交通・宿泊情報：

浦東空港から東華大学への交通手段については、山口大学・合田研究室のホームページ：

<http://mr25.mech.yamaguchi-u.ac.jp> に後日掲載しますのでご参照ください。

宿泊先については東華大学キャンパス内のゲストハウスを予約しますので、参加申込み時に上記申込先（竹村）に希望宿泊日をお知らせください。



2011 年度 JCOM 若手シンポジウム 参加募集



開催日 平成 23 年 9 月 2 日 (金), 3 日 (土)

主 催 日本材料学会
協 賛 日本複合材料学会, 複合材料界面科学研究会, 強化プラスチック協会, 日本機械学会, 日本航空宇宙学会, 先端材料技術協会, 高分子学会, 日本金属学会, 日本接着学会, 日本繊維機械学会, 関西 FRP フォーラム, 化学工学会, 軽金属学会, 自動車技術会, 精密工学会, セメント協会, 繊維学会, 炭素材料学会, 電気学会, 土木学会, 日本化学会, 日本建築学会, 日本ゴム協会, 日本材料科学会, 日本材料強度学会, 日本生体医工学会, 日本船舶海洋工学会, 日本塑性加工学会, 日本鉄鋼協会, 日本電子材料技術協会, 日本バイオマテリアル学会, 日本非破壊検査協会, 日本木材学会, 日本レオロジー学会, 表面技術協会, プラスチック成形加工学会, 溶接学会, 次世代金属・複合材料研究開発協会, 日本プラスチック工業連盟, 近畿化学協会, 中部 FRP フォーラム, ほくりく ACM 研究会, フィラー研究会, プラスチック技術協会

期 日 平成 23 年 9 月 2 日 (金), 3 日 (土)

会 場 京都工芸繊維大学 京丹後キャンパス地域連携センター (〒669-6101 京丹後市網野町網野 3038-1)

趣 旨^{*1}

複合材料部門委員会では, 複合材料分野の研究を担う若手技術者・研究者が一同に会し, 幅広い情報交換を行う「2010 年度 JCOM 若手シンポジウム」を開催しました. 本委員会はこれまでも, 単独のシンポジウム「JCOM」において優秀論文を発表した若手研究者に対し奨励賞や優秀講演賞, 優秀ポスター賞を贈与し, 若手研究者の活性化に取り組んできました. さらに, 平成 22 年 3 月 9~11 日に開催された第 1 回日本複合材料合同会議では, 若手研究者だけの特別セッション「先駆け」を設け, 若手の意見交換・人的交流の場を提供しています. このような経緯から若手を対象にした講演討論会の設立を望む声が強くなり, 本シンポジウムの開催に至っています. 本シンポジウムは, 旧来の複合化の視点に留まらず, 構造や機能性も対象とした従来の「JCOM」の内容を受け継ぎます. 若手技術者・研究者自らのニーズおよびシーズを互いに持ち寄り, 議論することで新しい研究展開への芽吹に繋がることを期待しています. また, 新旧交流の場としてもご活用ください. 皆様のご参加をお待ちしております.

プログラム (予定)

第 1 日目 (9 月 2 日 (金))

13:00~13:30 : 受付

13:30~13:40 : 開会挨拶 (複合材料部門委員会委員長
山口大学 合田公一)

13:40~14:00 : 自己紹介

14:00~17:00 : 講演・討論

17:00~20:00 : 夕食・休憩

20:00~23:00 : 意見交流会

第 2 日目 (9 月 3 日 (土))

9:00~11:50 : 講演・討論

11:50~12:00 : 総括, 閉会挨拶

プログラムの詳細は, 平成 23 年 7 月末日頃までに日本材料学会複合材料部門委員会ホームページ (<http://compo.jsms.jp>) にてご案内いたします.

定 員 30 名

参加費^{*2}

会員 (40 才未満) : 4,000 円, 会員 (40 才以上) : 6,000 円,
非会員 : 8,000 円, 学生会員 : 2,000 円, 学生非会員 : 3,000 円
いずれも資料代, 宿泊費 (シーツ代), 意見交流会費を含みますが, 食費 (第 1 日目の夕食, 第 2 日目の朝食) は各自でご負担ください.

講演資格 平成 23 年 4 月 1 日現在満 40 歳未満の方で, 複合材料や構造・機能性材料の研究・技術開発に取り組んでいる方 (学生を含みます.)

参加申込締切 平成 23 年 7 月 31 日 (日)

参加申込方法^{*3}

日本材料学会複合材料部門委員会ホームページ中の申し込みサイト (<http://compo.jsms.jp>) から以下の項目を入力してお申し込み下さい.

1. 氏名・年齢・所属学会 (学生会員の場合はその旨を記すこと),
 2. 勤務先または所属先, 連絡先, 3. 講演の有無, 4. 講演有りの場合, 講演題目および講演概要 (200 文字以内)
- 講演の採否, プログラムの編成については複合材料部門委員会の幹事会にご一任ください.

講演原稿および予稿集

講演原稿の作成要領および締切等につきましては, 日本材料学会複合材料部門委員会ホームページ (<http://compo.jsms.jp>) にてご案内いたします.

問合せ先

〒606-8301 京都市左京区吉田泉殿町 1-101

日本材料学会「JCOM 若手シンポジウム」係

FAX: (075)761-5325, TEL: (075)761-5321

E-mail: JCOM2011wakate@jsms.jp

^{*1} 本シンポジウムは, 日本材料学会 CPD 企画です.

^{*2} 会員は協賛学協会を含みます. 当日受付とします.

^{*3} 参加申込みの際にお届けいただいた個人情報, 諸連絡, 行事案内等の日本材料学会の事業運営のみに使用させていただきます.

JCCM-2 講演論文（USB メモリ）発行の お知らせ

2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災では東北から関東にわたり 2 万人を超える死者・行方不明者を出すという歴史的な大災害に見舞われました。このたびの地震と津波による犠牲者の方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された方々に謹んでお見舞い申し上げます。一日も早い復旧、復興を心よりお祈り申し上げます。

ところで、第 2 回 日本複合材料合同会議（JCCM-2）が予定されていた東京においても大きな被害を受け、交通網の遮断、電力の供給不足など本講演会を実施する上で多くの障害が発生し、当初予定の 3 月 16 日～18 日の開催は不可能と判断せざるを得ませんでした。本講演会に向けて準備を進めてきました JCCM-2 実行委員会にとりましては痛恨の決断となりましたが、杉本直委員長を始め関係者の皆様の素早い対応により、インフラの整わない中で、講演会関係者への連絡や、講演会予定会場の東京大学生産技術研究所との連絡など準備にも増してのハードスケジュールをこなして頂き、ほとんど混乱を招くことなく、この困難を乗り越えることができました。実行委員会及び関係者の皆様へ心から感謝いたします。

また参加を楽しみに講演論文を提出いただいた皆様には大変なご迷惑をおかけしましたが、このような状況でやむを得ない決断であったことをご理解いただき、突然の中止に関してご容赦をいただきたいと思います。

皆様から寄せられた貴重な論文を埋もれさせないことが、今回の合同会議に携わった私どもの役目と考えられますので、ここに JCCM-2 の講演論文集を発行し、提出された論文を既発表として扱わせていただきます。

「複合材料と関係するすべての人が集える、集いなくなる講演会」という目標に向かって、関係者一同、これからも日本複合材料合同会議（JCCM）を発展させていく所存でいます。今後とも皆様のご支援とご協力をいただきたいと思います。

日本材料学会複合材料部門委員会 委員長 合田 公一
日本複合材料学会 会長 末益 博志

上記のとおり、JCCM-2 講演論文集を発行することとなりました。全体としての収益、または論文集販売収入の一部を日本赤十字社の義援金に寄付させていただきたいと考えております。JCCM-2 論文集は、複合材料に関する広範で有益な 145 編の論文が掲載されておりますので、多くの方にご購入いただけましたら幸いです。講演論文集の頒布方法は下記の通りです。JCCM-2 ホームページ (<http://www.jscm.gr.jp/conference/jccm-2/index.html>) でもご確認いただけます。

JCCM-2 実行委員長 杉本 直

記

1. 頒布価格
定価 4,000 円（送料込み）
会員特価 3,000 円（JCCM-2 協賛学協会の会員を含む。送料込み）
2. 目次
プログラム（目次）は、複合材料部門委員会ホームページ (<http://compo.jsms.jp/>) をご覧下さい。
3. 申込方法
購入申込書 (http://www.jscm.gr.jp/conference/jccm-2/applicationform_usb.doc) に必要事項をご記入の上、E-mail または FAX で下記へお送りください。申込受領並びに振込

先口座をお知らせいたしますのでお振り込み下さい。入金確認後、JCCM-2 講演論文集を送付させていただきます。なお、振込手数料はご負担ください。

4. 申込先
日本複合材料学会事務局（E-mail : jscm@asas.or.jp または
FAX : 03-5981-6012）